尾張旭市立東中学校だより　平成２６年度 第１１号

しののめ

平成２７年２月５日発行

＜尾張旭市青少年健全育成推進会議「僕の意見 私の考え」発表より＞

「本当の親切とは・・・」

東中学校 三年 畑中彩乃

今年の夏、私は素晴らしいことを学びました。親戚のお姉さんが入院していることもあり、私はよく病院に行きました。毎日のように病院に行く私の母、早くよくなってほしいという気持ちで私の母も、私も頭の中は一杯でした。

ある日、私が1人で病院に行ったときのことです。病院の入口で車椅子の少女が、車椅子の輪が溝にはまってしまって、一生懸命とろうとしていました。私は、助けてあげようと思って、車椅子を押して、助けてあげました。「お姉ちゃん、ありがとう。」私はてっきり、そう言われると思っていました。

ところが、その少女は、「お姉ちゃん、自分でできるのにどうして助けたりなんかするの？」と一瞬怖い目で私に言うと、病室へ戻って行きました。なんて子だろう、私が助けてあげたというのに・・・。

私は心の中でそう言いました。夕方になっても、次の日になっても、なぜかその少女が言った言葉が気になって仕方がありませんでした。

数日後、ある手が不自由な人の本を読んでいました。すると、ある一行に、「私は、人からの同情がとてもイヤだ！」と書いてありました。ふと、この前の病院のことを思い出しました。あの少女は、一生懸命に車椅子を動かそうとしていました。私は、今思うと、悪気はなく、とった行動が、あの少女の「努力」というものをうばってしまったのだろう。私は反省しました。そして、今度病院に行ったら、少女にきちんとあやまろう、と思いました。

次の日、少女は、私を待っていたように入口にいました。私が、「おはよう、この間はごめんね。」と言うと、「お姉ちゃん、わたしこそごめんなさい。本当はうれしかったんだ。でも本当にあれは自分でできたの。」と・・・。

いろいろと話をしました。どうして足が不自由になったか。学校の友達の話、好きな動物の話、好きな食べ物の話。話をしている間、少女はとても楽しそうでした。でも一言、ぽつりと言いました。「この不自由な足を見て、振り返らない人はいないの。時には笑ったりする人もいる。どうしてなのかなあ？私、不自由でも一生懸命歩こうと努力しているのに。」という言葉。私より二つも年下の子が言ったとは思えないくらい胸を打たれました。私は何も答えることができませんでした。

私は医者ではありません。何もその少女にはしてあげられない中学生。「治してあげたい。」と思いました。でもどうすることもできません。無力なんだ、私はこの少女に何もしてあげることができないんだ、そう思いました。

しかし、私にもたった一つだけれどその少女にしてあげられることがある。それは、その少女の力になってあげることです。励ますことなら誰にでもできる親切ではないでしょうか。大きな親切はしてあげられない私だけれど、小さな親切ならできそう。少女のために力になってあげられそうなんです。

今年の夏、私は、自分自身の小さな親切、優しさ、思いやりを自分自身で見つけだすことができました。

今年、私は受験生です。三年生まで部活でバスケットをやり続け、引退後は受験勉強、これが当たり前の生活だと思っていました。私も、これでも一生懸命やっていたつもりでした。でも少女に出会い、いろいろな環境で私なんかより、もっともっと考え、がんばっている人がいることを知りました。少女と出会うことで、小さな親切を見つけ出すことができました。

中学生もあとわずかですが、この夏の出来事をいつも思い出して、これからも勉強と小さな親切にがんばっていきたいと思います。

「本当のやさしさ」

東中学校　一年　名原夕稀

「あの人、優しそうだね。」
「結婚するなら優しい人がいいよね。」
よく会話で出てくる“やさしい”という言葉。本来、とても素敵な言葉のはずです。でも、今は違った意味で使われている事が多いように思います。

例えば、宿題を忘れた友達が答えを見せてと言ったとします。答えを見せてあげれば、その子は“やさしい”と評価されるかもしれません。けれど忘れた子のためになるかと言えば、そうではなく、決して“やさしい”事をしたとは言えないでしょう。でも、もし断れば面倒臭い人だと評価される。そんな事が多いのではないでしょうか。“やさしい”という言葉を、自分にとって都合が良い意味に変えて使ってしまっているように思うのです。

六年生の時の担任の先生は、外見もとても優しそうで、本当の意味で優しい先生でした。自分達のクラスが一番になろう。そんな風に、一致団結し、目立とうと色々頑張って結果を残しても、先生はさほどほめてはくれませんでした。逆にクラスがまとまっていたために、強気になって、他のクラスの先生に生意気な態度をとっていた私達。きっと職員室では他の先生方から報告を受けていたでしょう。でも先生は笑顔で注意をする程度で、私達を頭ごなしに怒ることはしませんでした。いつでも誰にでも優しい先生に、もう少し自分のクラスをひいきしてほしいと思った事もありました。

ある日、他のクラスの先生が、雑巾が余っていないか訪ねてきました。私達のクラスは忘れ物ゼロを目指して、新学期にみんなが持って来た雑巾が沢山余っていたのです。でも、
「ありますよ。どうぞ。」
と渡す先生に、私達は文句を言いました。
「私達のクラスの物なのに・・・。」
そう騒ぐみんなに向かって、
「余っているんだから使ってもらおうよ。」
と先生は笑顔で言いました。

私はその時、納得出来ずにいました。

しかし、時間が経ち、冷静になった時、中学生なって小学校を思い出した時、気付いた事があります。自分に厳しく強くなければ人に優しく出来ないという事です。イライラする日だってあるし、馬が合わない人だっているのに、私達の前でいつも笑顔でいる事は、とても難しい事だと思います。色々な気持ちを自分の中で消化して生徒には見せない。私が先生になったとしても、そんな事は出来ないと思います。自分の気持ちの波をそのまま出してしまいそうです。

私だって、「困っているから助けてあげよう。」「私に何か出来る事はないかな。」そんな風に他人に優しくしようと思う事が、ない訳ではありません。でも、無意識のうちに見返りを求めています。「貸してあげる。」「やってあげる。」と上から目線で接しています。先生のように、「使ってもらおう。」という謙虚な気持ちはありません。

自分の評価を下げないために人に優しくしたとしても、結果、相手が喜んでくれれば、それは“やさしさ”だと思う人もいるかもしれません。

けれど私は、優しいという言葉を、その言葉がもつ本来の意味で使うべきだと思います。優しいという言葉は「痩す」の形容詞で、身が痩せ細るような思いで行動する事なのだそうです。自分が痩せ細るほど他人のために行動できる人は、一体何人いるのでしょう。

自分にとって都合の良い人が優しい人ではありません。自分の身を守るために人を助ける事が“やさしさ”ではないのです。たとえ自分にとって厳しい事だったとしても、本当の“やさしさ”を見極められる人になりたいです。そして、自分も優しい人にならなければいけないと思いました。自分の意見がしっかりあって、自分に厳しく、そして強く、思いやりや感謝の気持ちがなければ優しい人間にはなれないと思います。沢山の努力が必要ですが、“やさしさ”の本当の意味を知り、そうなれるよう努力する事が大切だと思います。

尾張旭市立東中学校 学校だより「しののめ」編集部
〒488-0051 愛知県尾張旭市下井町前の上1602番地
教頭：加藤奈保樹　☎ 0561(54)6511 FAX 0561(52)2905